山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和８年１月１日～令和８年９月６日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和７年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 ８ 年	243	34	3	108	125	270
令 和 ７ 年	276	33	4	137	135	309
前 年 同 期 比	−33	1	−1	−29	−10	−39

２　山域別発生状況

区　　分		件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	38	15.6%	4	0	20	20	44
	後立山	77	31.7%	17	1	27	45	90
	その他	25	10.3%	2	0	15	10	27
計		140	57.6%	23	1	62	75	161
中央アルプス		20	8.2%	0	0	10	11	21
南アルプス		8	3.3%	1	1	4	2	8
八ヶ岳連峰		24	9.9%	5	0	9	12	26
その他の山岳		51	21.0%	5	1	23	25	54
計		243		34	3	108	125	270

３　態様別発生状況

区　　分	件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	65	26.7%	15	0	54	0	69
転　　倒	46	18.9%	0	0	46	0	46
病　　気	19	7.8%	7	0	0	12	19
道 迷 い	26	10.7%	0	0	0	36	36
落　　石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪　　崩	3	1.2%	2	0	1	0	3
落　　雷	2	0.8%	0	0	2	0	2
疲労凍死傷	41	16.9%	3	0	0	42	45
不明・他	41	16.9%	7	3	5	35	50
計	243		34	3	108	125	270

４　男女別・年齢別比率

区　分	男性 死者	不明	負傷	無事	計	（人）比率	女性 死者	不明	負傷	無事	計	（人）比率	男女計 人数	比率
１９歳以下	1	0	1	6	8		0	0	1	3	4		12	
２０ 代	2	0	6	16	24	45	0	0	1	5	6	24	30	69
３０ 代	1	0	5	7	13	24.7%	1	0	4	9	14	27.3%	27	25.6%
４０ 代	4	0	11	10	25	63	1	0	2	2	5	28	30	91
５０ 代	5	0	18	15	38	34.6%	1	0	14	8	23	31.8%	61	33.7%
６０ 代	11	1	13	20	45	74	2	0	11	5	18	36	63	110
７０以上	5	2	11	11	29	40.7%	0	0	10	8	18	40.9%	47	40.7%
計	29	3	65	85	182		5	0	43	40	88		270	
比　率	67.4%						32.6%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（8/31～9/6）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
8月31日	北アルプス 槍沢	女	35	無事救出	その他	2人パーティで上高地から入山し、槍沢周辺の山小屋で宿泊中、腰痛により、行動不能
9月1日	中央アルプス 千畳敷	男	71	無事救出	疲労	単独で千畳敷から入山し、八丁坂付近で、疲労により、行動不能
9月2日	北アルプス 間ノ岳	男	22	負傷	滑落	2人パーティで西穂高岳から奥穂高岳に向けて縦走中、間ノ岳付近の鎖場でバランスを崩し、滑落、負傷
9月5日	八ヶ岳連峰 蓼科山	女	59	無事救出	疲労	17人パーティで七合目登山口から蓼科山に向けて登山中、疲労により、行動不能
9月5日	中央アルプス 空木岳	女	56	無事救出	道迷い	単独で空木岳に入山し、池山尾根を下山中、道に迷い、行動不能
9月6日	北アルプス 間ノ岳	男	35	負傷	その他	単独で西穂高岳から奥穂高岳に向けて縦走中、右肩を負傷、行動不能
9月6日	長野市浅川地籍 薬山	女	56	負傷	滑落	単独で長野市浅川地籍から入山し薬山周辺を登山中、バランスを崩し、滑落、負傷
9月6日	北アルプス 野口五郎岳	男	78	行方不明	不明	単独で七倉登山口から野口五郎岳方面へ入山し、行方不明

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、8件の山岳遭難が発生し、滑落や疲労による行動不能遭難、下山時の道迷い遭難のほか、北アルプス野口五郎岳周辺では行方不明遭難が発生しました。

9月に入り、北アルプス西穂高岳から奥穂高岳間にある、間ノ岳周辺では2件の遭難が発生しています。いずれも信州側の鎖場付近で発生しており、通行する際は、滑落や落石などに注意が必要です。

【ビバークセットを携行しましょう】

登山をするにあたり、自身の登山計画（日帰り、縦走等）や、登山スタイル（登山やトレイルランニング、小屋泊やテント泊等）、天候、気温などの要素に加え、自身の体力や体調などを分析し、適切な装備を選定する必要があります。その中で、「荷物の軽量化」は非常に重要な項目ですが、必要な装備や万が一に対応するための装備を確実に携行し「リスクへの対処力」を補うことが重要となります。

ビバークセットは、ツェルト（雨風を凌ぎ、外気への体の曝露を防ぐ）、ガス類・コッヘル（火気類で体を温める、お湯を沸かす）、保温ボトル（熱いお湯を保管する）、防寒着（体温を逃がさない）、非常食等をまとめて携行し、ヘッドライトや予備バッテリー、救急セットも備えましょう。登山のリスクに対して、ノーガードで相対する事の無いように、冷静かつ慎重な判断をお願いします。